

## 医療低被ばくにも配慮！安心な治療をお約束します

東京審美会は、将来の医療被曝の影響にも配慮！

被曝量の少ないデジタル断層撮影システムで

1～2mm刻みに3枚撮影するだけで安心な術前診断が可能です。

また、CT検査、血液検査を行った場合でも術前検査・診断料のご負担はありません、

インプラント治療では、骨の形状、骨の幅を正確に知ることが必須であるため、

CT撮影による診断が必要不可欠と言われております。

きちんとした立体的な3次元撮影を行わないでインプラント治療を行うのは、

海図を持たず航海に出るようなもので危険なのはいうまでもありませんが、

その一方で、日本における過剰なCT撮影と医療被曝によるガンの発生に警笛がならされているのも事実です。

CTは、0.5~1.0mmの幅で、連続して撮影したレントゲン写真のデータを

コンピューターを使って3次的に再現するしくみで、

全体の細かな情報を読み取れる反面、何枚もの撮影を繰り返し行っているために、当然に医療被曝は多くなってしまっています。

東京審美会では、大切な頭部への放射線照射は慎重に考えなければならないと考えています。

被曝量を増やせば増やすほど鮮明さは増しますが、医療被曝による患者さまの不利益も十分に考慮に入れなければならないと考えています。

東京審美会では、必要な診断を確保しつつ、医療被曝を最小限に抑えるため、

インプラント埋入予定部の中心に1枚、手前に1枚、奥に1枚の

1～2mm刻みに計3枚の小さな断層デジタルレントゲンを撮影するだけで骨幅、神経までの距離や上顎洞までの距離を正確に診断できる世界で最も被曝量の少ない断層デジタルレントゲンシステムをドイツから導入しています。

がんの3.2% 放射線診断 が原因

無用な検査 避ける  
心配なら被ばく量聞いて

放射線診断とがん 欧・オ・クラスア  
十六アールが、日本や欧米など日本国  
を比較し、医療被曝が原因としたがんの割合を調査した。  
結果、欧米が原因としたがんの割合が欧米より高まる  
として、放射線被曝などを原因と推定、年間1.9%  
の割合でがんの原因と推定した。

放射線診断の単位、診断中に照射されたエネルギー  
を示す吸収線量（グレイ）と、人工放射線  
による自然放射線と比べた際の放射線被曝の総量（シー  
ベルト）がある。実際には、放射線被曝に  
特別な対策を講じている。シーベルトは10000シーベルト  
、グレイは10000グレイに相当する。

検査の 部位	検査ごとに平均検査 被曝量（シーベルト）				実効線量 （シーベルト）
	日	米	米	米	
胸部	10	0.05	—	—	1.9
頭	0.02	0.04	—	—	0.9
腹部	0.14	0.03	0.05	0.05	1.4
全身	—	0.05	0.03	0.03	1.0

2004年10月1日現在、1日60分以内

健康

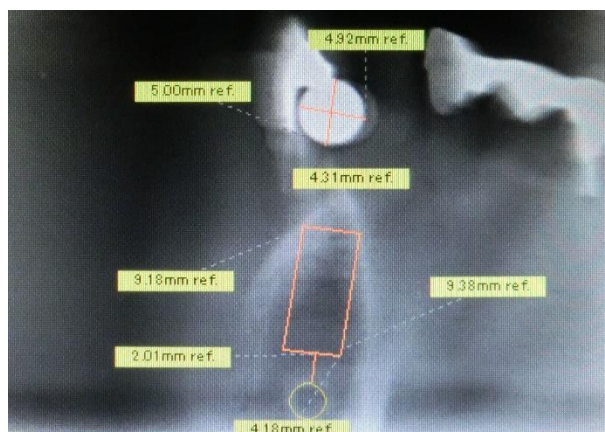
〈読売新聞 日本人のがんの3.2%は、医療被曝が原因だと報じています〉

東京審美会なら、たった3枚の断層写真により骨形態の変化を把握できます。  
圧倒的に少ない放射線量で、頭部への放射線被曝を最小限に抑えます！

将来、万が一の医療被曝の影響を考慮して、東京審美会でのCT撮影は、  
上顎洞粘膜までの距離が短く、上顎洞を挙上する必要がある場合の**動脈の位置の確認**の  
必要の場合と

下顎神経までの距離が短く、埋入までの下顎管の骨内の走行を連続的に正確に診断しな  
ければいけない場合のみとし、**過剰な検査は避ける**よう心掛けしています。

また、健康診断が必要な場合には、採血による健康診断も合わせておこなっています。



〈被曝量と真摯に向き合う東京審美会〉

骨が安定した形状であれば、最小限の範囲の断層レントゲン3枚で、神経までの距離も正確にわかり、インプラントは安全に埋入できます。

東京審美会では、**将来の医療被曝も考慮した安心なインプラント治療**をお届けしています。